

奨励賞



学校につめこむ

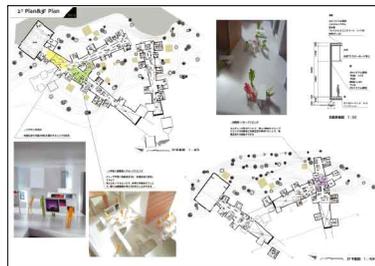
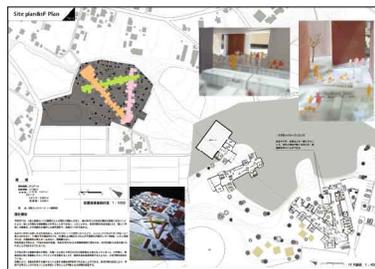
郊外における合築

玉置 俊浩(たまおき としひろ)

千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



学校内では、生徒と教師という2種類の人との関わりしかなく、他年代との交流の機会が極端に少ないことにより、接し方や異なる価値観などを学ぶことができない。このことから、多世代間の交流を踏まえた「新しい学校」の提案を、少子高齢化の進行した郊外都市で、合築という形で試みた。少子化に伴い児童数の減少が発生、児童一人当たり約250m²もの低密度な土地になった。小学校に、弥富地区に無い図書館と居住型高齢者施設を合築することで、密度を高め有効利用するとともに、多世代間の交流をつくる。合築により、施設を利用する様々な人々と接する機会を学校内で与えることができる。多世代間の交流により、学校では学ぶことのできないことを体感して学ぶことが可能となる空間を提案する。



【講評】全校生徒が7数名の現存する小学校の敷地に計画したと聞いたとき、自分が生まれ育った環境と重ね合わせてしまった。

少子化による生徒数の減少を逆にとり、他の年代の人たちとの交流を視野に入れた「新しい形の学校」を提案した作品である。

コンクリート・木材・メタルという3種類の素材で出来たキューブをちりばめた帯状の施設を三角形にレイアウトした複合建築である。

3本の帯の交点は交流の場となり、それぞれの独立した施設は、ここで緩やかに繋がる。生徒数7数名の地域につくる「図書館」に疑問はあるが、図書館という名の地域性のある施設にも展開できよう。

このキューブ群の形状からすると、いくつかのエキスパンションジョイントが必要だろうが、それは時代の変化に伴う増築や減築の計画を容易にする仕組みともいえる。

(審査員：飯嶋茂信)